

新潟市花育関連事業の実施状況について

第2次新潟市花育推進計画 数値指標一覧

指 標		策定時	目標時	実 績									備 考
指 標 名		単 位	H26	R4	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
花育の普及啓発 (健康で豊かな心を培う)													
1	情報紙「花育通信」の発行部数	部	15,000	24,000	16,000	16,000	16,000	6,000	6,000	6,000	6,000	40,000	多くの市民から花育に関心を持ってもらうよう、花育に関する様々な情報・実践例を紹介。
2	花育関連講座の受講者数	人	2,740	3,300	2,838	3,064	2,918	2,815	2,203	1,698	1,568	1,784	食育・花育センターによる各種栽培講座や、苔やアロマ等幅広い分野の講座
3	花育の日・花育月間の推進	回	0	年2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	3回	拠点施設である食育・花育センター及び小売店・関係団体との連携による推進
家庭、学校、職場等での花育の推進 (健康で豊かな心を培う)													
4	花育マスターの派遣件数	件	105	170	132	139	157	105	— 紹介に変更	— 紹介に変更	— 紹介に変更	— 紹介に変更	地域での花育活動の推進のため、様々な花の専門家を花育マスターに登録。インストラクターとして派遣
5	アグリ・スタディ・プログラムに基づく花育体験や団体体験プログラムの実施団体数	団体	30	70	80	71	78	67	82	51	58	49	食育・花育センターによる小学生や園児を中心とした団体向け花育体験
6	保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	%	48	60	48	—	53	54	60	47	45	47	コミュニティ協議会等地域との協働による花育活動
7	生産現場の花育活動登録数	件	2	20	2	2	2	2	2	0	0	0	生産者団体や生産者による花育活動の推進
市民活動、地域活動としての花育の推進 (快適でやすらぎのある暮らしを満喫する)													
8	緑化活動推進事業の実施団体数	団体	390	400	403	400	405	358	348	318	335	344 (見込み)	みどりの政策課による地域の緑化推進事業
「花や緑」あふれる自然や歴史、文化を次世代へ継承する花育の推進 (ふるさと新潟の四季が織りなす「花や緑」の自然や歴史文化を次世代に伝える)													
9	新潟の花や緑について生産者や流通の現場で学ぶ講座等の受講者数	人	290	330	209	135	190	241	120	0	0	22	花の産地を巡るバスツアー、生産者による花の育成講座
「花や緑」に親しむ場の整備 (ふるさと新潟の四季が織りなす「花や緑」の自然や歴史文化を次世代に伝える)													
10	多面的機能支払交付金事業を活用した植栽による景観形成等への取り組み率	%	77.6	90	85.6	87.0	85.7	86.0	85.7	85.3	86.3	86.4	農村整備・水産振興課による農村集落や水路等の景観整備事業

R2.2.29 新型コロナウイルス
市内感染者初確認

令和4年度 花育推進事業の取り組みについて

1 第2次新潟市花育推進計画 数値指標の取り組み

(1) 情報紙の発行部数

花育に関する様々な情報を紹介する「花育通信」を発行。花育関係者や公共施設、学校関係等に配布し、花育の普及啓発を行うとともに、ホームページ、SNSなどの広報媒体を活用し情報を発信した。

発行部数・回数 4,000部/2回

配布場所 庁内関係課、小・中学校、幼稚園・保育園等
区役所、公民館、図書館、花関連施設 など

(2) 花育関連講座の受講者数

家庭における花育活動の推進のため、各種園芸講座、新潟の特色を活かした寄せ植えに関する講座、苔やアロマ等多種多様な講座を計95回開催し、2,801人が受講した。展示会は24回行った。

園芸講座 1,784人/74回 花育ミニ体験 1,017人/21回

展示会 24回

いくとぴあ流バラの手入れ講座

グリーンテラリウム講座

家庭果樹剪定講座



(3) 「花育の日」の普及推進

「花育月間（4月・10月）」・「花育の日（4月19日・10月19日）」の普及推進

<4月の取り組み内容>

- ・ 小売店32社43店舗の協力のもと、のぼり旗を掲揚し、店独自の特典やサービスとあわせて花の種をプレゼントした。
- ・ 事前PR講座として、旧第四銀行住吉町支店を会場にて花育の日協力店によるアレンジメント講座を開催し花店を訪れるハードルを下げる機会とした。参加者18名

<9月の取り組み内容>

○いくとぴあフラワーフェスティバル

- ・ いくとぴあ食花と共催により「いくとぴあフラワーフェスティバル」を開催した。花育マスターや花育の日協力店によるワークショップを通して、花や植物に触れる楽しみを実感してもらう機会となった。また、今回はワークショップに新潟薬科大学の学生も参加したことで、子どもたちの参加を増やすことができた。

実施日 令和4年9月24日(土)

場 所 いくとぴあ食花 花とみどりの展示館

- ・植物販売
- ・植物チャリティーオークション
(売上は被災地の緑化支援に取り組む団体に寄付)

全体入場者 800人 花育体験ワークショップ参加者 122人

- 【内 容】花育マスター ・ドライフラワーのBOX アレンジ or 壁掛け
- ・ボタニカルロールオンアロマ
- 花小売店 ・生花のアレンジメント
- ・フラワーアレンジメントのデモンストレーション
- 新潟薬科大 ・押し花を使ったしおり or キーホルダー

<3月の取り組み内容>

○スプリングブリーズ in ラブラ万代

- ・ラブラ万代およびイオンスタイルとの共催で、ラブラ2を会場に食と花の魅力体感イベントを開催。

花に関しては、市内産チューリップの販売と県内産チューリップの装飾展示、ワークショップを行い、チューリップの販売とワークショップを新潟農業・バイオ専門学校が行った。

また、ホワイトデー前ということもあり、チューリップ販売と併せて学生によるラッピングのオプションも用意し特別感を出した。チューリップ販売は大変好調で喜ばれていた。

実施日 令和5年3月11日(土)12日(日)

場 所 ラブラ万代2 1階および2階

【花に関する内容】

- ・県内産チューリップ装飾展示
- ・ワークショップ(マカロンキャンドル作り)
- ・市内産チューリップ販売とラッピング

【食に関する内容】

- ・ワークショップ(カイワレ大根栽培カップ他)
- ・専門学校(2校)による米粉など市内産食材を使ったパンやスイーツ販売



チューリップ販売数 1,080本 ワークショップ参加者 100人

(4) 団体体験プログラム等の実施

いくとぴあ食花(食育・花育センター)において、団体プログラムを市内外の小学校や幼稚園、保育園・こども園等を対象に実施した(新型コロナウイルス感染症を理由としたキャンセルが3件あった)。また、市内小学校2校が「アグリ・スタディ・プログラム」を実施した。

団体プログラムR4実績 実施校園数 49件/対象者 2,295人

【内訳】小学校 22校/幼・保育園 23園/福祉関係団体 3団体/中学校 1校

(5) 保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率

回答率 85%	市立小学校 106校		市立保育園 83園		市立幼稚園 10園		全体 199校・園	
R4 花育活動実施	86校	90%	58園	89%	7園	88%	151校・園	89%
(参考)R3 花育活動実施	98校	96%	72園	91%	8園	100%	178校・園	94%
R4 地域連携	63校	66%	12園	19%	4園	50%	79校・園	47%
(参考)R3 地域連携	64校	63%	17園	22%	4園	50%	85校・園	45%

地域等との連携による花を通じた交流の取り組みの実施率は、昨年度の45%とほぼ同じ47%であり、コロナ禍の影響がみられた。花育活動の課題としては、「時間に余裕がない」が最も多く、「職員の負担が大きい」、「活動する予算がない」、「活動に関するノウハウがない」が順に続いた。

(7) 生産現場の花育活動登録数

花卉生産組合から花育マスターとして登録してもらい、小学校等の花育活動に派遣していたが、令和元年度に花育マスター制度を派遣から紹介に変更したことに伴い、生産団体の花育マスター登録数は0となった。

(8) 緑化活動推進事業の実施団体数

公園をはじめ、公共施設や道路用地で緑化活動を行う自治会、地域コミュニティ協議会等の団体への支援として、植栽する花苗などの購入費を補助し、地域への誇りと愛着のある緑豊かで潤いのあるまちづくりを推進する事業。令和3年度は335団体が実施した。



(9) 新潟の花や緑について生産者や流通の現場で学ぶ講座等の受講者数

○花育バスツアー「花と食の探究ツアー」

花の生産現場を訪れ、生産者から直接話をきくことで生産者の努力を知ってもらうとともに、市産の花を日常に取り入れてもらうきっかけになることを目的に開催。併せて、農家レストランで採れたて野菜を味わうことで地産地消の意識醸成も行った。

参加者から「実際にお花を作っている方の変さが少しわかった、これからは市内産の花を意識します」や「子どもはトマトとレタスが苦手でしたが全部食べていた」との声が寄せられた。

実施日 令和4年7月24日(日) 午前9時～午後4時

参加者 市民22名(小学生8名 大人14名)

行程 東区竹尾地区皆川農園キク畑 → 北区農家レストラン「エストルト」 → 北区福島潟菱風荘にてハーバリウム体験 → 北区太田地区伊藤さんハウスにて JA 新潟市より新潟市の花生産の現状について → トルコキキョウ収穫体験



「花と食の探究ツアー」

このほか、秋葉区役所産業振興課では、公共施設（新潟市7区役所）にて鉢花の寄せ植えを展示し、来庁者・来場者へPRを行った。



12月前半展示 秋葉区役所



12月後半展示 秋葉区役所

(10) 多面的機能支払交付金事業を活用した植栽による景観形成等への取り組み

多面的機能支払交付金事業を活用した地域共同により、植栽やビオトープづくりなどの景観形成活動を通じ、農村環境の緑化への取り組みを行った。



2 その他の取り組み

(1) 花育俳句

昨年に引き続き、「花育」を知っていただく・感じていただく一環として「花や緑に関する俳句」を小学生と一般から募集し、全国から797人、1,276句（R3：811人、1,205句）の応募があった。今回は「花のある生活」を題材として優秀句を選出し、新潟県花き振興協議会の協賛により、市産の花（チューリップ、アザレア）を記念品として贈呈した。また、応募された全句を市ホームページに掲載するほか、4月には食育・花育センターイベント時に掲示予定。

(2) 萬代橋チューリップフェスティバル

市民が育てた約2万5千本の市の花『チューリップ』で市のシンボルである『萬代橋』とその周辺を彩り、市民の皆さんと春の到来を喜び合った。

開催期間初日には、オープニングセレモニーを実施し、開催期間中の萬代橋周辺には、多くの市民が訪れ、たくさんのチューリップを見て楽しんでいた。

参加者 430団体及び個人(令和3年8月参加者募集、10月～翌年4月チューリップ育成)
主な参加者：保育園、幼稚園、小学校、中学校、個人、企業、団体等



「2022年萬代橋チューリップフェスティバル」

(3) 「新潟の花を贈ろう」キャンペーン

	タイトル	日程	会場	内容
1	「母の日」に新潟産の花を贈ろう	4月28日(木) ～5月1日(日)	食育・花育センター 1階 アトリウム	・市産の花を使ったメイン装飾展示 ・市内花店のギフトアレンジ展示 ・花のある暮らし提案展示 など
2	にいがたサマーリリーフェア 2022 in NEXT21	7月5日(火)～ 8日(金)	NEXT21 1階 アトリウム	・ユリの装飾タワー展示 ・産地・品種紹介 ・花のある暮らし提案展示 など
3	いい夫婦の日 「大切な人に新潟産の花を贈ろう」	11月14日(月) ～17日(木)	NEXT21 1階 アトリウム	・市内花店によるフラワーデモンストレーション ・作成アレンジメント展示
4	スプリングブリーズ in ラブラ	3月11日(土) ・12日(日)	ラブラ2 1階 特設会場 2階 広	・新潟県産チューリップのアレンジメントによる品種展示 ・新潟市産チューリップ切花販売

【母の日】



【サマーリリーフェア】



【いい夫婦の日】

【スプリングブリーズ in ラブラ】



(4) にいがた 2 km 食花マルシェ

○新潟駅～万代～古町を繋ぐ都心軸“にいがた 2km”において、本市の魅力である食と花を市内外に向けて発信する「食花マルシェ」を食会場（万代シティエリア）と花会場（新潟駅エリア）の2か所で開催した。

日 時 令和 4 年 10 月 8 日（土）～10 月 9 日（日） 10:00～16:00

主 催 新潟市（農林水産部食と花の推進課）

花会場 新潟駅西側連絡通路

- ・ 出店数：12 者・15 小間
- ・ 出店者：生産者、生花店、造園会社など
- ・ 内 容：新潟市産を中心とした花きの販売
 フラワーデモンストレーション
 フラワーオークション

<来場者の声>

- 普段、花を見る機会がなかなか無く、今回マルシェで買ってみようと思った。
- 駅ナカでこのようなイベントを見たことがなく、賑やかで面白い企画だった。
- 花の生産者と直接話せるイベントは他にはない。

<出店者の声>

- 人が集まる場所での出店で新潟が花の有名産地であることを発信できた。
- これまで同業者と一緒に事業を行う機会がなく、マルシェでは個の力ではできない大きな発信力となった。
- 人出はあったものの売上に直結できなかった。売り方や品目の工夫も必要。



3 関係団体と連携した取り組み

(1) にいがた花絵プロジェクト実行委員会による花絵制作

30周年記念となった令和4年度は「ありがとう！」をテーマとした巨大壁画を制作した(令和4年度をもって休会)。食と花の推進課は SNS による情報発信とプレスリリースを行った。

日時 令和4年4月29日(金・祝)

会場 新潟駅南口中央広場

(2) にいがた花フェスタ「にいがたフラワーバレンタイン2023」

食と花の世界フォーラム組織委員会(※)による事業。バレンタインの時期に合わせて、人通りの多い JR 新潟駅で花きの装飾展示と、駅ビル内飲食店舗とのコラボレーションを行った。

<展示>日時 令和5年2月9日(木)~14日(火)

会場 新潟駅東改札前広場

<催事>日時 令和5年2月11日(土)~12日(日)

会場 新潟駅ビル CoCoLo 内飲食テナント等6店舗

内容 各テナントで特定商品を注文・購入した人へ市産チューリップを530本配布した



※「食と花」をキーワードに都市ブランドの構築を図り、本市の魅力と個性を国内外に情報発信し、国際拠点としての機能の向上を図ることを目的に産官学民で構成されている組織。事務局を食と花の推進課が担う。